

令和5年度

すくすくウォッチ

(大阪府小学生学力テスト)

結果概要

交野市教育委員会



おりひめちゃん

① 調査概要

令和5年度 小学生すくすくウォッチ

交野市教育委員会

1 目的

子どもたち一人ひとりが自らの強み等を知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。

2 調査を実施した児童数

- 5年生 66,514人(交野市:9校 646人)
- 6年生 67,329人(交野市:9校 603人)

3 実施内容・実施日

- 実施内容 5年生 国語、算数、理科、わくわく問題(教科横断型問題)、アンケート
6年生 理科、わくわく問題(教科横断型問題)、アンケート
- 実施期間 令和5年4月17日～25日 ※期間内で学校が実施日を決定

4 各教科・わくわく問題(教科横断型問題)及びアンケートについて

- 各教科について
 - 【国語】・言語能力・読解力の基盤となる、基礎的基本的な言葉等の理解を問う問題
・文章に書かれている意味を正確に捉える力(リーディングスキル)をはかる問題
 - 【算数】・数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を問う問題
 - 【理科】・理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことや、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を問う問題 ※大問2問のうち1問は5・6年生共通問題
- わくわく問題(教科横断型問題)について ※5・6年生共通問題
 - ・日常の活動や現代的な諸課題(SDGs、プログラミング的思考)等をテーマにした問題
 - ・教科の枠を超えて文章やグラフ等の様々な資料を題材に、問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題
- アンケートについて
 - ・これからの予測困難な社会を生き抜くために必要な、テスト等では測れない子どもの力を問う項目
 - ・授業での活動、学級活動、家庭での状況、子どもの好奇心等を問う項目

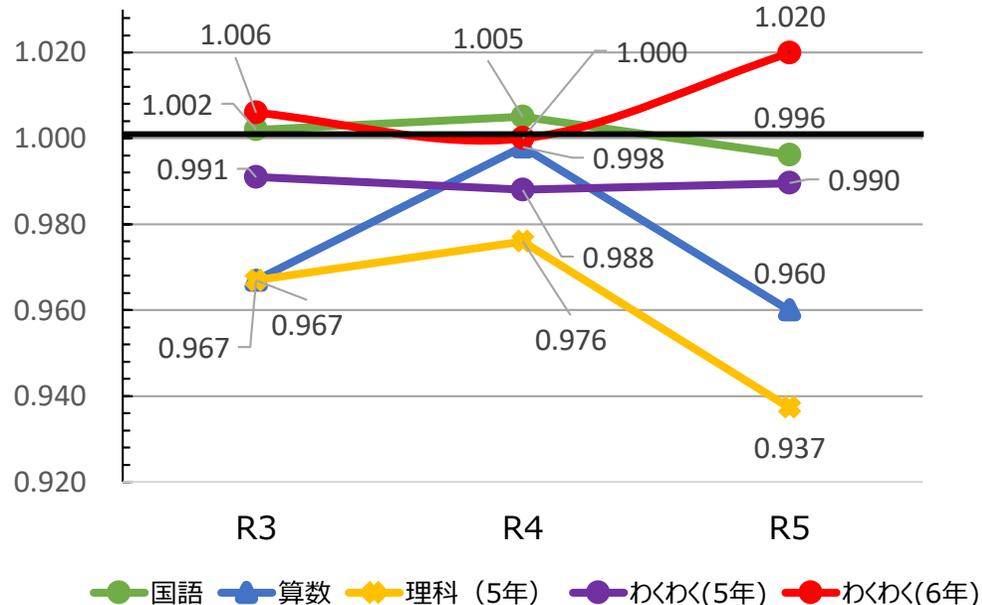
平均正答率(%)

※()内の数値は大阪府比

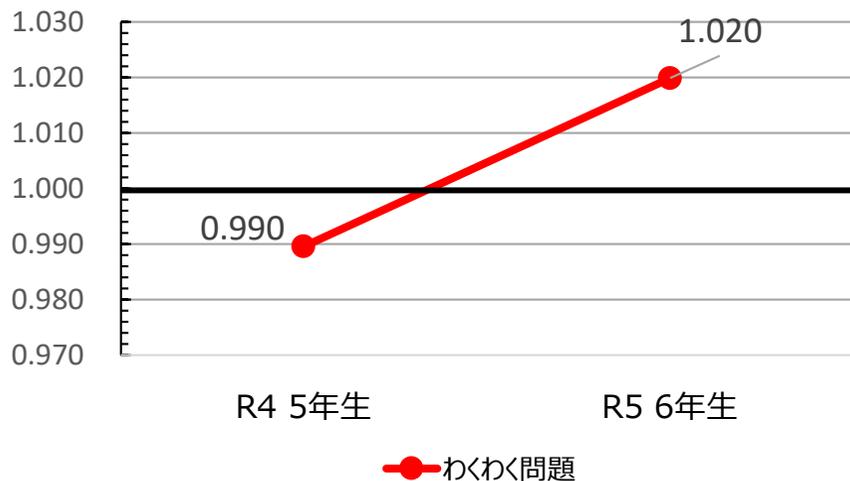
年度	5年生				6年生	
	国語	算数	理科	わくわく問題	理科	わくわく問題
R5	78.0 (-0.3)	36.0 (-1.5)	58.4 (-3.9)	66.4 (-0.7)	72.3 (-0.8)	77.1 (+1.5)
R4	77.2 (+0.4)	41.9 (-0.1)	70.5 (-1.7)	59.3 (-0.7)		69.1 (+0.1)
R3	81.8 (+0.2)	46.9 (-1.6)	47.6 (-1.6)	54.6 (-0.5)		65.5 (+0.4)

対府比の経年変化

※大阪府の平均正答率を1.000としたときの、市の各教科等の平均正答率の推移



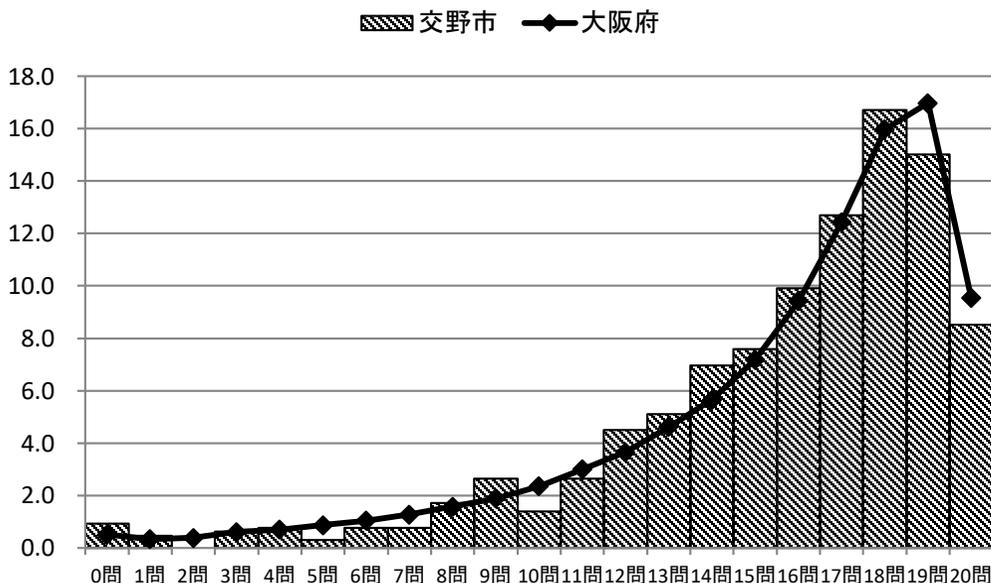
わくわく問題対府比の同一集団における経年変化



- 6年生のわくわく問題の平均正答率は、1.5ポイント大阪府平均を上回っている。
- わくわく問題における同一集団の経年変化では、昨年度大阪府平均を下回っていたものの、対府比1.020へ上昇している。
- 5年生では、全ての教科等において、大阪府平均を下回っている。
- 5年生の理科では、平均正答率が大阪府平均を3.9ポイント下回っており、対府比も0.937へ下降している。

国語(5年生)

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



改善が求められる問題

問題番号	平均正答率(%)		出題の趣旨
	交野市	大阪府	
4 (1)	76.6	80.1	日常で使うローマ字を正しく読む。
12 (2)	64.1	68.7	文の中における主語と述語の関係を捉えて、文の内容を正しく理解する。

分類・区分別集計結果

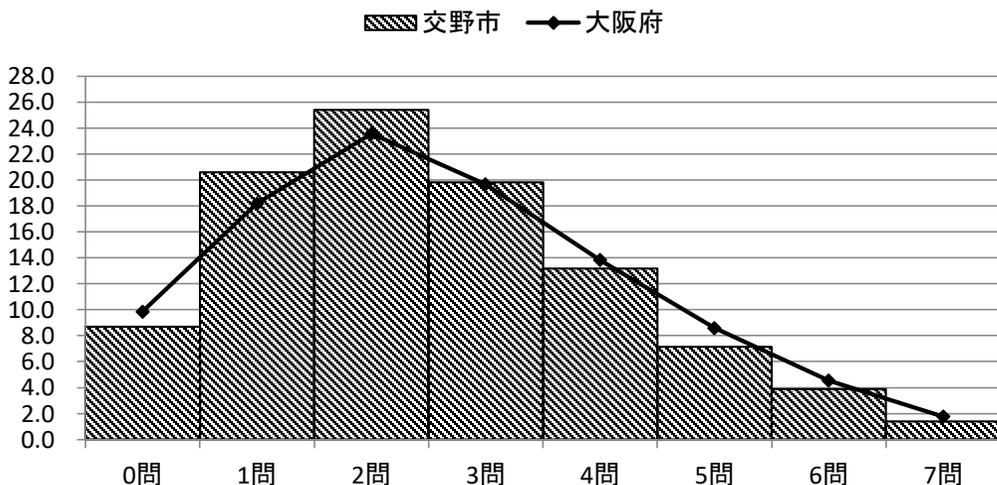
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			交野市	大阪府	
全体			20	78.0	78.3
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	17	80.7	80.8
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	60.4	62.8
		(3)我が国の言語文化に関する事項	2	63.8	64.4
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	—	—	—
		書くこと	5	83.6	82.4
読むこと		—	—	—	
評価の観点	知識・技能		20	78.0	78.3
	思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	—	—	—
		書くこと	5	83.6	82.4
		読むこと	—	—	—
主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	—	
問題形式	選択式		10	77.0	77.5
	短答式		10	79.0	79.1
	記述式		—	—	—

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

- 「書くこと」領域において、大阪府平均を1.2ポイント上回っている。
- 正答数分布では、大阪府は19問、本市は18問を頂点とする右寄りの山を描いており、正答数20問の割合が低い。

算数(5年生)

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



改善が求められる問題

問題番号	平均正答率(%)		出題の趣旨
	交野市	大阪府	
1 (2)	21.7	24.4	1日に進めたページを表す棒グラフと、残りのページ数を表す折れ線グラフのそれぞれから読み取ることができる内容を、正しく理解する。
2 (2)	33.3	38.2	列にならんでいる人の順番と、入場するまでにかかった時間という二つの数量の変化や関係を、表や会話の中から読み取り、□や△を使った式で表す。

分類・区分別集計結果

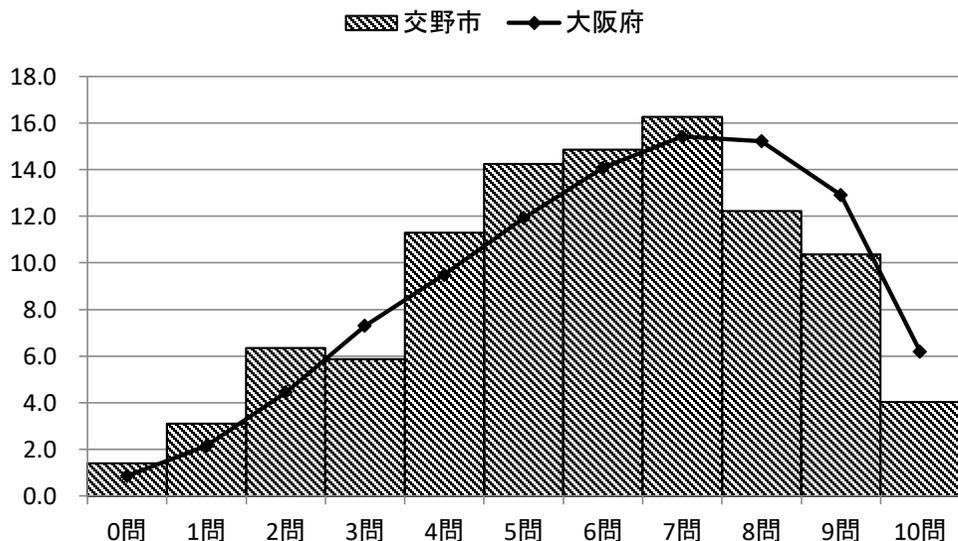
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			交野市	大阪府
	全体	7	36.0	37.5
学習指導要領の領域	数と計算	4	37.6	39.5
	図形	2	40.0	39.9
	測定/変化と関係	3	24.7	26.7
	データの活用	1	21.7	24.4
評価の観点	知識・技能	5	46.3	48.0
	思考・判断・表現	2	10.2	11.1
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	1	21.7	24.4
	短答式	4	52.5	53.9
	記述式	2	10.2	11.1

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

- 「図形」領域において、大阪府平均を0.1ポイント上回っている。
- 「図形」領域を除く項目で大阪府平均を下回っている。
- 正答数分布では、大阪府、本市ともに2問を頂点とする左寄りの山を描いている。

理科(5年生)

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



改善が求められる問題

問題番号	平均正答率(%)		出題の趣旨
	交野市	大阪府	
1 (1)	52.5	63.7	乾電池2個と豆電球1個からなる回路で、乾電池を直列つなぎにしたときと並列つなぎにしたときの豆電球の明るさの違いを理解する。
2 (3)	25.7	34.1	虫めがねの正しい使い方を理解する。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数(問)	平均正答率(%)	
			交野市	大阪府
全体		10	58.4	62.3
学習指導要領 の領域	エネルギー	4	66.0	69.9
	粒子	—	—	—
	生命	6	53.4	57.2
	地球	—	—	—
評価の観点	知識・技能	7	52.7	57.6
	思考・判断・表現	3	71.7	73.2
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	7	59.8	63.7
	短答式	2	46.0	55.5
	記述式	2	62.9	64.9

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

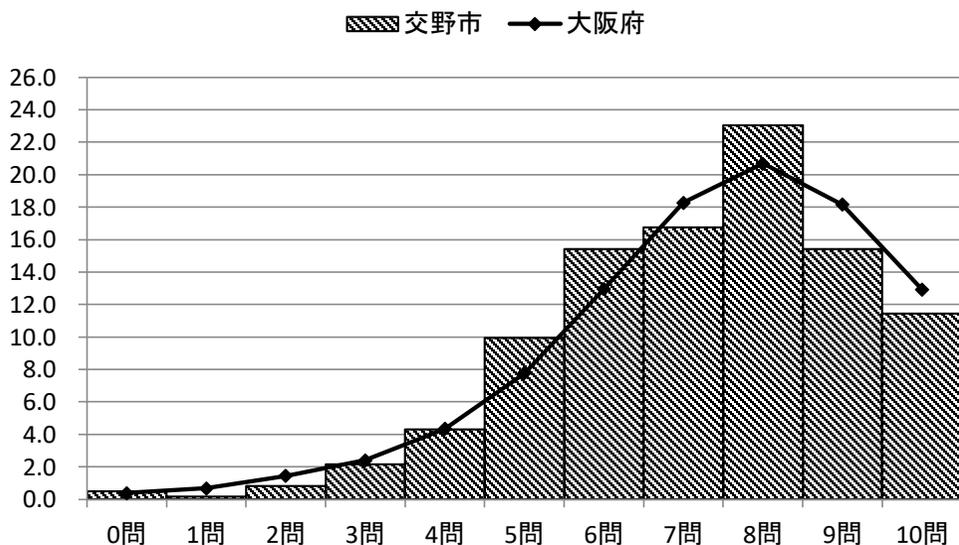
○「思考・判断・表現」を評価する問題の平均正答率は71%以上となり、当該問題においては一定の学力の定着が見られる。

●全ての項目で大阪府平均を下回っている。

●正答数分布では、大阪府、本市ともに7問を頂点とする右寄りの山を描いているが、8問以上の割合が低い。

理科(6年生)

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



改善が求められる問題

問題番号	平均正答率(%)		出題の趣旨
	交野市	大阪府	
1 (1)	52.1	63.4	乾電池2個と豆電球1個からなる回路で、乾電池を直列つなぎにしたときと並列つなぎにしたときの豆電球の明るさの違いを理解する。
2 (6)	35.3	40.0	気象衛星の雲画像とアメダスの降水量の画像から、今後の天気の変化について考察する。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			交野市	大阪府	
全体			10	72.3	73.1
学習指導要領の領域	エネルギー	4	71.0	72.8	
	粒子	—	—	—	
	生命	—	—	—	
	地球	6	73.1	73.3	
評価の観点	知識・技能	7	73.5	74.4	
	思考・判断・表現	3	69.5	69.9	
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	
問題形式	選択式	7	64.8	66.3	
	短答式	3	78.0	81.5	
	記述式	2	61.4	62.7	

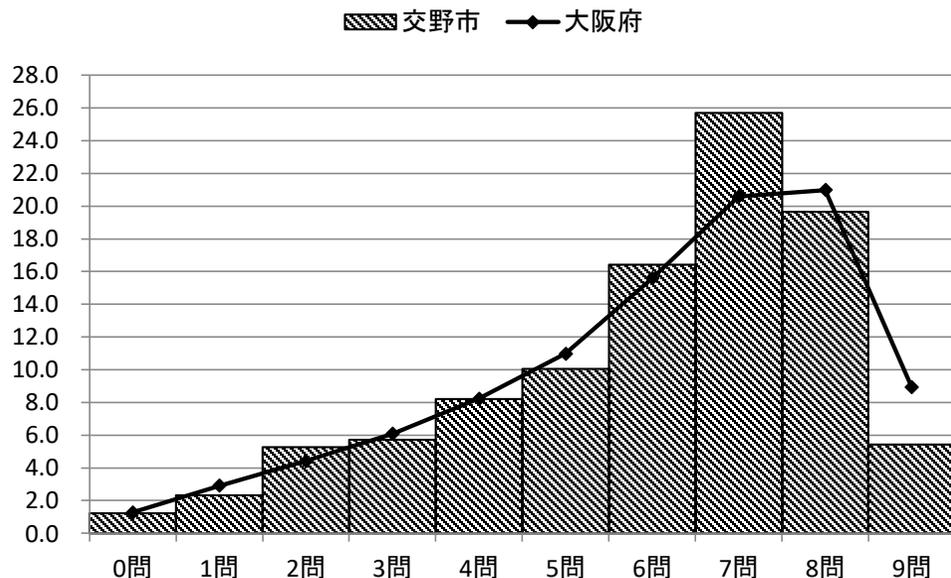
※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

○「エネルギー」及び「地球」領域の問題の平均正答率はどちらも71%以上となり、当該問題においては一定の学力の定着が見られる。

- 全ての項目で大阪府平均を下回っている。
- 正答数分布では、大阪府、本市ともに8問を頂点とする右寄りの山を描いているが、9問以上の割合が低い。

わくわく問題(5年生)

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



改善が求められる問題

問題番号	平均正答率(%)		出題の意図
	交野市	大阪府	
1 (2)	48.5	50.5	児童にとって身近な「ソース」を題材とし、種々の資料を読み取り、それに基づいて思考する力や、自分の立場を明確にした上でその理由を表現する力を育てることを目的とした問題。
2 (3)	47.8	53.9	ロボット掃除機の観察をきっかけとして、ロボットやAIに関連する諸技術やその活用に興味・関心を広げていく中で、論理的に思考し問題を発見・解決していく力を育てることを目的とした問題。

分類・区分別集計結果

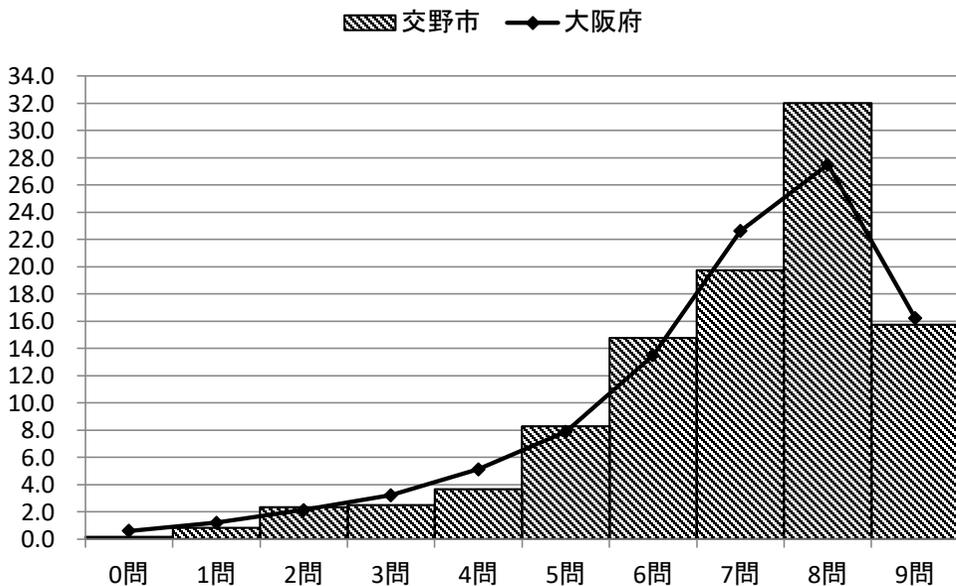
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			交野市	大阪府
全体		9	66.4	67.1
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。	3	75.1	75.9
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち伝える。	4	50.1	51.8
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事からを考える。	2	67.6	70.6
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。(プログラミング的思考)	4	63.0	63.9
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	1	87.3	87.3
問題を とらえる	文章から読み取る	5	71.5	72.7
	会話から読み取る	5	70.4	70.0
	図や表から読み取る	7	60.8	62.1
伝える	資料の情報を整理して伝える	5	59.9	60.1
	自身で考えたことを伝える	3	73.2	74.2
	理由や根拠を明確にして伝える	3	64.1	65.5
問題形式	選択	3	73.0	72.4
	図表	1	87.3	87.3
	記述	6	63.1	64.4

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

- 「会話から読み取る」問題では、大阪府平均を0.4ポイント上回っている。
- 正答数分布では、大阪府は8問、本市は7問を頂点とする右寄りの山を描いており、8問及び9問の正答数の割合が低い。

わくわく問題(6年生)

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



改善が求められる問題

問題番号	平均正答率(%)		出題の意図
	交野市	大阪府	
2 (3)	68.0	68.6	ロボット掃除機の観察をきっかけとして、ロボットやAIに関連する諸技術やその活用に興味・関心を広げていく中で、論理的に思考し問題を発見・解決していく力を育むことを目的とした問題。
3 (1)	40.1	43.2	大阪万博から世界に広まった「ピクトグラム」を題材とし、ピクトグラムがどのようなものかを知るとともに、資料を分類・整理すること、会話と資料を関連付けること、相手にわかりやすく伝えるための工夫を考え表現することを目的とした問題。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			交野市	大阪府
全体		9	77.1	75.6
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。	3	85.6	84.0
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち伝える。	4	62.7	61.9
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事からを考える。	2	80.8	80.2
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。(プログラミング的思考)	4	73.5	73.1
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	1	93.5	91.7
問題を とらえる	文章から読み取る	5	83.4	81.9
	会話から読み取る	5	80.6	77.7
	図や表から読み取る	7	72.5	71.4
伝える	資料の情報を整理して伝える	5	70.0	68.5
	自身で考えたことを伝える	3	84.7	83.1
	理由や根拠を明確にして伝える	3	78.3	76.4
問題形式	選択	3	82.8	80.5
	図表	1	93.5	91.7
	記述	6	74.2	73.2

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

- 全ての項目において、大阪府平均を上回っている。
- 概ね高い平均正答率となっているが、観点B「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。」の問題では62.7%にとどまっている。

④ 改善が求められる問題

令和5年度 小学生すくすくウォッチ

交野市教育委員会

国語(5年生)

12 (1)

出題の趣旨 文の中における主語と述語の関係を捉えて、文の内容を正しく理解する。

としきさんは、ももかさんとゆうたさんに言いました。「今日の給食に、あゆむさんが献立コンテストで考えたお楽しみカレーができて、まいこさんが言っていたよ。何が入っているか楽しみだね。」

問 まいこさんの話を聞いたのは誰ですか。次の1から4までの中から一つ選びましょう。

1 としきさん 2 ももかさん 3 ゆうたさん 4 あゆむさん

文の構造や関係を理解することに課題が見られた。文章の内容を正しく理解し、要約する等の活動を充実させ、学習内容を定着させていく必要がある。

解答類型	交野市(%)	大阪府(%)
1を選択 (正答)	64.1	68.7
2を選択	5.4	3.6
3を選択	3.4	3.7
4を選択	10.7	10.4
その他・ 無解答	16.4	13.5

算数(5年生)

2 (2)

出題の趣旨 列にならんでいる人の順番と、入場するまでにかかった時間という二つの数量の変化や関係を、表や会話の中から読み取り、□や△を使った式で表す。

2人は展示室Aの入口に向かいましたが、混雑していたため、30秒ずつ間を空けて入場するように、係の人が案内しています。下の【表】は、列にならんで待っていた人が先頭から順番に、入場するまでに何秒かかったかを、はじめさんが記録したものです。

【表】

列にならんで待っていた人の順番(番)	1	2	3	4	...	20
入場するまでにかかった時間(秒)	30	60	90	120	...	600

問 列にならんでいる人の順番を□番目、その人が入場するまでにかかった時間を△秒としたときの、□と△の関係を式に表しましょう。

読み取った情報を式を使って表現することに課題が見られた。自分がどのように考えたのか説明したり、具体的な数値を使ったりして学習内容を定着させていく必要がある。

解答類型	交野市(%)	大阪府(%)
$30 \times \square = \triangle$ (同値な式を含む)	33.3	38.2
$30 \times \triangle = \square$ (同値な式を含む)	1.5	2.0
$30 \times \square$ (同値な式を含む)	0.0	0.1
上記以外	43.7	42.2
無解答	21.5	17.5

令和5年度 小学生すくすくウォッチ

④ 改善が求められる問題

理科(5・6年生) 1 (1)

出題の趣旨 乾電池2個と豆電球1個からなる回路で、乾電池を直列つなぎにしたときと並列つなぎにしたときの豆電球の明るさの違いを理解する。

【ラウラさんが借りた懐中電灯の中の様子】 【ゆうきさんが借りた懐中電灯の中の様子】



問 ゆうきさんの借りた懐中電灯の乾電池2個のつなぎ方を何と言いますか。書きましょう。また、2人の懐中電灯の明るさを比べたとき、次の文の口にあてはまる言葉を「明るい・暗い・同じ」から選びましょう。ただし、使っている乾電池と豆電球は同じものです。

ゆうきさんの借りた懐中電灯の明るさは、ラウラさんの借りた懐中電灯と比べると、

5・6年生共通して、用語やその特徴を理解することに課題が見られた。実験結果をもとに考察を行い、考えや理由を説明する等の活動を充実させ学習内容を定着させていく必要がある。

わくわく問題(5・6年生) 2 (3)

出題の趣旨 ロボット掃除機の観察をきっかけとして、ロボットやAIに関連する諸技術やその活用に興味・関心を広げていく中で、論理的に思考し問題を発見・解決していく力を育むことを目的とした問題。

問 資料をもとに、あなたなら身の回りや社会の問題を解決するために、どんなことをするロボットを作りたいですか。次の【条件】に合わせて書きましょう。

- 条件**
- (a)もとにする資料を1つ以上選びましょう。
 - (b)初めに、もとにした資料から、どのような問題があると考えたか書きましょう。
 - (c)次に、その問題を解決するためにどんなことをするロボットを作りたいか具体的に書きましょう。

5・6年生共通して、考えたことを条件に従って表現することに課題が見られた。なぜそう考えたかという理由や根拠となる事柄を明らかにして伝える等の活動を充実させていく必要がある。

解答類型	交野市(%)		大阪府(%)	
	5年生	6年生	5年生	6年生
並列つなぎ・暗い	15.6	18.2	27.4	26.0
並列つなぎ・暗い以外	8.7	5.1	10.0	8.6
直列つなぎ・暗い	2.0	3.2	3.2	3.0
直列つなぎ・暗い以外	3.9	7.3	6.4	7.9
上記以外で暗い	26.2	25.5	23.1	25.8
上記以外・無解答	43.6	40.6	29.9	28.7

解答類型	交野市(%)		大阪府(%)	
	5年生	6年生	5年生	6年生
条件を全て満たしている	13.9	25.9	18.3	27.9
条件(a)(c)を満たし、(b)を満たしていない	33.9	42.1	35.5	40.7
条件(a)(b)を満たし、(c)を満たしていない	5.4	5.3	3.9	4.3
上記以外	37.3	20.7	32.6	21.7
無解答	9.4	6.0	9.6	5.4

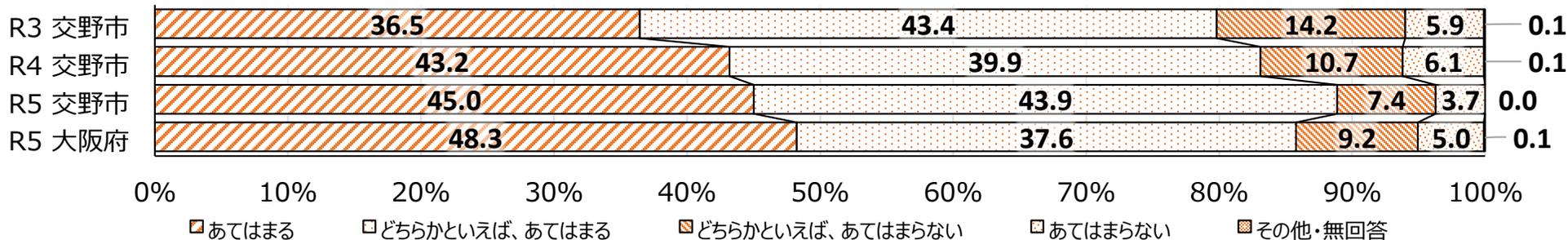
⑤ アンケート結果

令和5年度 小学生すくすくウォッチ

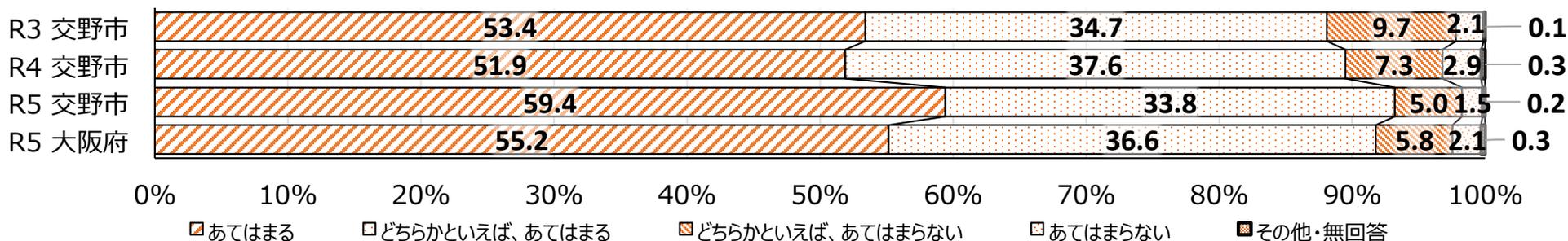
交野市教育委員会

良好な結果が見られた項目(5・6年生)

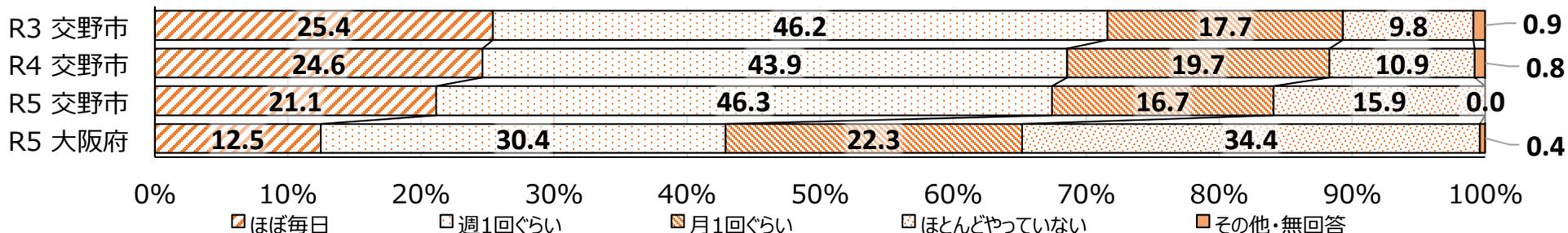
■ 「自分にはよいところがある」と思う



■ 先生は、あなたのよいところを認めてくれている



■ 授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりすることはどれくらいありますか



- この3年間で自己肯定感は着実に高まってきており、日々の教職員の取組みの成果が表れていると考えられる。
- 授業中、タブレットを活用した交流の機会は大阪府内の状況に比べて大幅に上回っており、授業改善が着実に進んでいると考えられる。

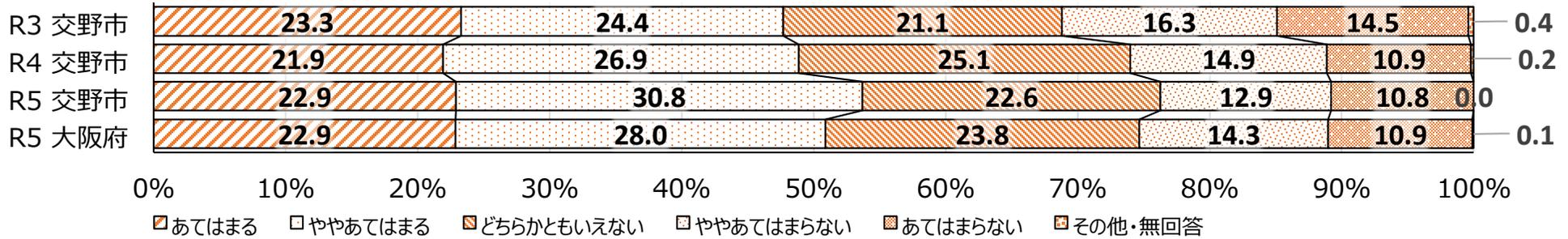
⑤ アンケート結果

令和5年度 小学生すくすくウォッチ

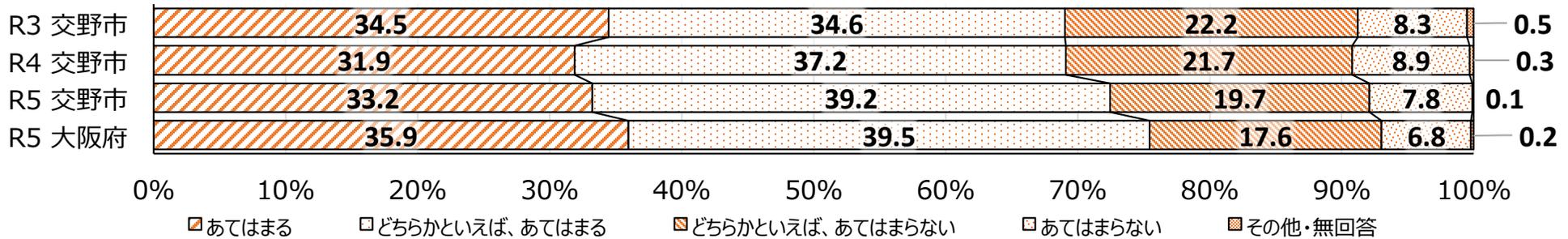
交野市教育委員会

課題が見られた項目(5・6年生)

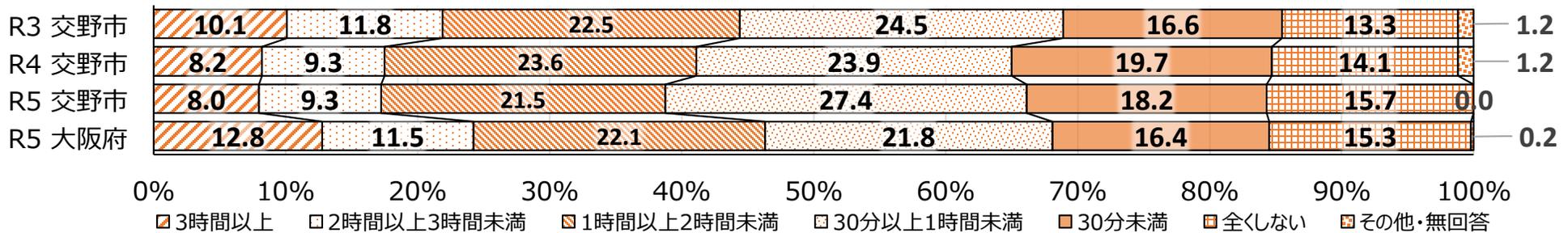
■ 終わるまでに何か月もかかる計画に、最後までずっと興味を持ち続けるのは難しい



■ 文章を読むとき、どこが大事なところか考えながら読んでいる



■ ふだん(月曜日から金曜日)1日に、学校の授業や宿題以外に、およそどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



- 目標や計画を立てて学習する等、児童が自ら学びに向かう力の育成に課題が見られる。
- 「宿題以外の学習を全くしない」児童の割合が年々高まっている。タブレットを有効に活用する等、家庭学習の充実を図る必要がある。

1. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

市の主な取り組み

- 教員の授業力向上を目的とし、先進的な授業の取り組み実施している他府県の小・中学校(令和5年度は秋田県大館市)への教育視察を実施。実施後は各校での参加者による伝達講習及び参加者事後交流会を設け、継続的な授業力向上の取り組みを推進。
- 学力向上モデル校を4校設定し、効果のあった取り組みやタブレットの活用方法等を学力向上担当者会で発信。加えて今年度からは市教職員専用ポータルサイトを開設し、全教職員でモデル校の取り組みを共有できるシステムを構築。
- 小学校高学年では、児童の学習内容の定着や中学校のテスト形式に慣れることなどを目的として「小学校定期テスト」を実施。自分の考え及びその根拠が求められる問題を意識して繰り返すことで学習指導及び評価の質的向上を促進。

成果(◎)と課題(△)

- ◎ 「自分には良いところがある」や「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」の肯定的回答の割合が増加傾向にある。児童の主体的な学習を促す活動が展開されている。
- ◎ 授業においてタブレットを活用した意見交流は大阪府の活用状況を大きく上回っており、日々の教員研修や実践交流の成果が見られた。タブレットをツールとした対話的で協働的な学びが浸透している。
- ◎ 同一集団のわくわく問題の対府比経年比較は上昇しており、学力調査の結果分析を踏まえた各校の授業改善の取り組みに一定の効果が見られる。
- △ 既習事項が十分活用されていない状況が散見された。「どのようなゴールをめざしているのか」を児童と共有し、学習したことを他の教科や日常生活で活用することが重要である。

2. 学校における「探究的な学び×情報活用能力」の指導体制の充実

市の主な取り組み

- 全校の学校図書館に「学びあい支援員」を配置し、学校図書館の機能を強化。本やタブレットを有効に活用することによる「学び方を学ぶ場」として児童・生徒の探究学習の充実。
- 全校の学校図書館に複数の新聞を配備し、学習資料の一つとして活用。児童・生徒に新しい社会課題との出会いの場を提供。
- 全校に「子ども未来サポーター」を配置。放課後に学校図書館を開館し、教室で学んだことを確かめ、広げ、深めるといった児童・生徒の自発的、主体的な活動を支援。
- 児童・生徒の学びの成果を発表する場(プログラミングコンテストやプレゼンコンテスト)を設け、自ら学ぶ意欲を醸成。

成果(◎)と課題(△)

- ◎ 「文章を読むとき、どこが大事なところか考えながら読んでいる」の質問に対し、肯定的に回答する児童の割合は増加傾向にあり、読むことへの目的意識が高まりつつある。
- △ 無解答の割合が大阪府平均と比較し高い。習得した知識及び技能を日常生活の課題と結び付け、探究する学習を積み重ねられるよう、教科を横断した授業を展開する必要がある。
- △ 「終わるまでに何か月もかかる計画に、最後までずっと興味を持ち続けるのは難しい」と感じている児童は半数を超えている。社会課題に着目し、自分の興味や関心に基づいて学習の目標や計画を立て、学習の過程や成果を振り返り、次に繋げるといった、「自分で学びとる」機会の提供が重要である。